

ほとぼり

くま) もうだいぶ前によ、大店紙屋の若旦那が、遠い異国の賭場で大博打打って、百億もしくじった事があったねえ。百億円だぜ、駄菓子屋で「おばちゃん、ここに百円置くよ」とは訳が違うよ。「百・おく・円」だよ。「百・円・おく」。あれ？何が違うの？

はち) それで、百億円っていったい、いくらなんだよ。

くま) 百億円はねえ。んーと、んーと、百億円だよ。ゆきち様何人になるのかね(金)？

よた) ねえねえ。百億円で、まんじゅういくつ買えるの？ねえ。

はち) くだらねえこと聞くなよ。たくさん買えるよ、死ぬほど食えるよ！何べんでも。

よた) ふーん。そんなに。

はち) よたよ。おめえは長生きするよ。でもね。おめえがほんとに死ぬのはなあ。

たぶん、饅頭の食い過ぎじゃあなくて、まあ、豆腐の角に頭ぶつけた時だろーな。

くま) なあはちよ。あの大店、百億もしくじっても倒れねえし、その気配すらないよな。

はち) あれはよ、デキル番頭がたくさんいたからだろうね。トリマキがよってたかって若旦那のケツをよーく拭いたからなんだって。らしいよ。しかもキレイに。

くま) なあはち。おめえ。じゃあ、どうやって拭いたか知ってるか？

はち) 知らねえ。おせーて。おせーて。

くま) あれはよ。自分とこの紙使ってケツ拭いたらしいよ。自家消費だってよ。

はち) どうりで。で、あんなにキレイに拭けるのは、何かモノがヨツと違うの？

くま) 噂だけど。なんとか電子化の時の碎いた紙を混ぜてあるらしいよ。自分の店の。

はち) いやー良く考えたね。自分とこの、うまく償還したね。ご立派、ご立派。

くま) ところでおめえ。持ってねえのかい？

はち) 何よ。

くま) あのー何だよ。大店のアレだよ。アレ。その大店の。

はち) そんなのある訳ねえよ。おめえこそ、こそっり持ってんじゃねえの？

くま) あればねえ。あのね。今はよう。あのしくじりがめつかった時の倍以上だつてさ。

はち) よたよ。残念だったな。饅頭食いそびれちまったな。死ぬほどくえねーな。

よた) んーん。もういいんだ。いらねえ。おいら、まんじゅうおっかねえ。

はち) 何。おっかねえだつて？おっかねえつて。何よ。何なんだよ。

よた) 今度あ、濃いお茶がおっかねえ。(→逃げ~~~~~る。)

はち) おい。よた待てー、この野郎！まてよー。

くま) あの野郎、絶対持ってやがった。まてえー。